

第2回 施策1 佐屋小学校準備委員会 次第

日時 令和6年11月7日 午後2時～
場所 愛西市役所 南館1階 会議室1－3

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 検討部会の報告

(2) 佐屋小学校老朽化対策の手法について

(3) 今後のスケジュールについて

(4) その他

4 閉会

○佐屋小学校準備委員会に係る第 1 回地域課題部会を終えて

令和 6 年 10 月 17 日（木）午後 2 時より、佐屋小学校準備委員会に係る第 1 回地域課題部会を開催いたしました。

1. 佐屋小学校準備委員会に係る地域課題部会員

		氏名	役職
1	総代（佐屋小学校区）	佐藤 光男	
2	佐屋小学校学校評議員	中島 悦夫	部会長
3	佐屋小学校 PTA 関係者	下里 亘	
4	公募委員（未就学児保護者）	永森 文子	
5	佐屋小学校 教頭	小出 哲平	副部会長

2. 佐屋小学校準備委員会に係る第 1 回地域課題部会でいただいた意見

※詳細な意見については、別紙を参照してください。



3. 佐屋小学校準備委員会に係る第Ⅰ回地域課題部会の会議の様子



【佐屋小学校準備委員会に係る第1回地域課題部会の意見】

校舎等

- ・地域住民と交流をはかれる多目的のホール等の生涯学習スペース
- ・室内のガラスを強化ガラスに。
- ・円の校舎
- ・エレベーター
- ・病児保育施設
- ・体育館通路のバリアフリー化
- ・体育館にエアコンを設置
- ・市民が利用できる屋内プールがほしい。
- ・運動場に屋根のある部分、ミストシャワーを作る。

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・体育館に車椅子用スロープ

外

- ・防災トイレの設置
- ・車が入ってしやすいロータリー
- ・屋上にソーラーパネルの設置（停電時対応用）

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・避難所となった時に使用できるかまどやトイレ
- ・蓄電設備、太陽光発電

その他

- ・避難所体験ができるような宿泊施設、備品がほしい。

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・学校や体育館のキーボックス（災害時のため）

施設・通学路に関する意見

- ・風通しを良くする。
- ・光が入り、明るい空間に。
- ・円の校舎
- ・南館の底上げ
- ・予期せぬ大雨にも浸水しない校舎
- ・運動場へ出やすい昇降口
- ・職員室近くにお迎え児童の待機スペースと出入口
- ・開放的な保健室
- ・トイレの位置の検討
- ・学年ごとの物品が置ける学年室
- ・管理棟と各教室、運動場配置の検討
- ・教室とロッカーのサイズアップ（A4教科書対応）
- ・各フロアに学年問わず集まれる広いスペース
- ・教室の面積の拡大（ロッカー、タブレットの保管庫を置いても十分なスペース）
- ・特別支援教室にパーテーションを設置し、2部屋に分けられるように。
- ・教室に入れない児童が一時的に休めるスペース
- ・児童を保護者へスムーズに引き渡せるような保健室の設置場所を検討
- ・中庭にも遊び施設を作る。

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・荷物置場と更衣スペースの仕切りがほしい。
- ・外線電話回線の増加
- ・廊下でも放送が聞こえるようにしてほしい。
- ・2、3年フロアの手洗いスペースの増加
- ・メンテナンスが必要なものはどのようにしていくかの検討
- ・修繕することを前提とした検討
- ・PTA 玄関辺りの排水を良く。
- ・昇降口の出入り口を大きく。
- ・コンクリートを通らずに運動場に出れるようにしてほしい。
- ・トイレは洋式かつ暖房便座
- ・広い図書室
- ・家庭科室、配膳室の設備の充実
- ・嘔吐等での隔離スペース

○佐屋小学校準備委員会に係る第 1 回施設・通学路部会を終えて

令和 6 年 10 月 21 日（月）午後 2 時より、佐屋小学校準備委員会に係る第 1 回施設・通学路部会を開催いたしました。

1. 佐屋小学校準備委員会に係る施設・通学路部会員

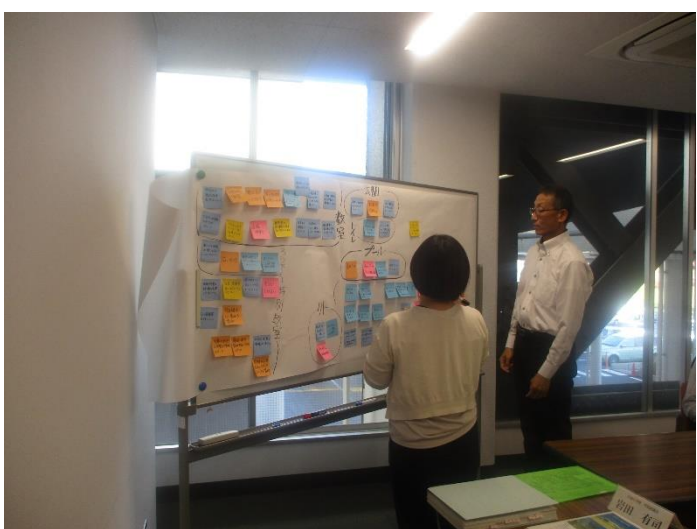
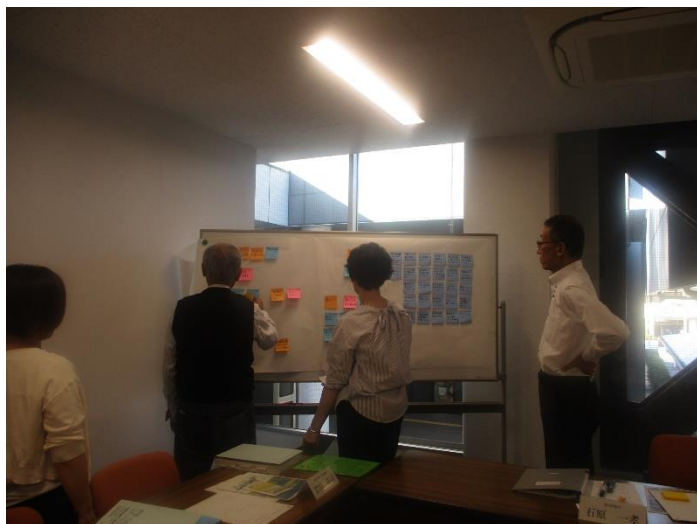
		氏名	役職
1	総代（佐屋小学校区）	石原 一孝	
2	佐屋小学校学校評議員	岩田 有司	部会長
3	佐屋小学校 PTA 関係者	岩佐 浩司	
4	公募委員（未就学児保護者）	成田 亜耶	
5	佐屋小学校 校務主任	神内 景子	副部会長

2. 佐屋小学校準備委員会に係る第 1 回施設・通学路部会でいただいた意見

※詳細な意見については、別紙を参照してください。



3. 佐屋小学校準備委員会に係る第1回施設・通学路部会の会議の様子



【佐屋小学校準備委員会に係る第1回施設・通学路部会の意見】

教室・廊下

- ・収納の多い教室
- ・明るく広々とした教室
- ・木のぬくもりのある教室
- ・光が入り、解放感のある教室
- ・余裕のある教室の広さ
- ・ふれあい空間や給食の配膳のための広い廊下
- ・給食の備品を廊下で保管できるスペース作り

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・学校内に適応指導教室を設置
- ・十分な収納スペース、掲示スペース
- ・低学年の学年室
- ・荷物置き場と更衣スペースの仕切りがほしい。
- ・1学年1教室の支援学級教室
- ・配膳室の設備の充実
- ・廊下でも放送が聞こえるようにしてほしい。

特別教室

- ・掃除しやすい教室
- ・体育、音楽等が楽しくできるような教室
- ・学年関係なく集まれる場所
- ・多数のお迎え児童の待機スペース
- ・屋根のある学年下校ができるスペース
- ・教師が人目を気にせず休憩できる場所

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・家庭科室の設備の充実
- ・各フロアに広いスペース
- ・広い図書室
- ・お迎え児童の部屋

玄関

- ・まとまった昇降口

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・昇降口の出入口を大きくしてほしい。
- ・PTA 玄関辺りの排水を良くしてほしい。

プール

- ・屋内、温水プール
- ・プールの必要性の検討、公的プールスイミング等の活用

外

- ・小高い丘の上の学校、広い視野
- ・草木が少ない校庭や中庭

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・職員室から運動場がよく見渡せるようにしてほしい。

その他

- ・いじめにならないこと、いじめにされないこと

トイレ

- ・多目的トイレの数、全ての階に複数設置

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・洋式かつ暖房便座にしてほしい。

設備

- ・木のぬくもりのある校舎
- ・吹抜空間、オープンスペース等多様な用途のある空間
- ・夏涼しく冬暖かい空気の通り道
- ・空間を遮る物の高さを下げる。
- ・安全面を考えた作り
- ・学校のテーマ、シンボルに沿った校舎
- ・手洗い場数の充実
- ・イベントを大切に

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・コンクリートを通らずに運動場へ出れるようにしてほしい。
- ・エレベーター
- ・車いす用の体育館のスロープ
- ・メンテナンスが必要なものはどのようにしていくか、検討
- ・2、3年フロアの手洗いスペースの増加
- ・外線電話回線の増加
- ・隔離スペース（嘔吐の時等）

地域課題に関する意見

- ・避難所として、地域活用しやすい部屋

（佐屋小教員からの事前意見）

- ・学校や体育館にキーボックスを設置（災害時のため）

佐屋小学校 耐力度調査について

1. 耐力度調査とは

耐力度調査は、学校施設の構造耐力、経年による耐力・機能の低下、立地条件による影響の3点の項目を総合的に調査し、建物の老朽化を総合的に評価するものです。

区分	項目	
構造耐力	①	水平耐力
	保有耐力	コンクリート圧縮強度
	②層間変形角	
	③基礎構造	
	④地震による被災履歴	
健全度	①経年変化	
	②鉄筋腐食度	
	③コンクリート中性化深さ・鉄筋かぶり厚さ	
	④躯体の状態	
	⑤不同沈下量	
	⑥コンクリート圧縮強度	
	⑦火災による疲弊度	
立地条件	①地震地域係数	
	②地盤種別	
	③敷地条件	
	④積雪寒冷地域	
	⑤海岸からの距離	

(参考)調査時の写真



建物内のコンクリートをはつり、鉄筋の腐食度を確認しています。

2. 調査の目的

校舎及び体育館が構造上危険な状態にあるか把握し、老朽化対策方法を改築か大規模修繕かどうか方向性を決めるため。

3. 構造上危険な状態とは

「公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目」より、建物の骨組みが危険な状態にある建物の危険な状態の度合いは耐力度で示し、この耐力度は、構造耐力、健全度及び立地条件について耐力度調査票により測定する。

耐力度点数(満点 10,000 点)が次の点数以下になった建物を構造上危険な状態にある建物という。

- ・木造→5,500 点
- ・鉄筋コンクリート造、鉄骨造、補強コンクリートブロック造等→4,500 点

4. 調査結果(速報値) R6.10.4 時点

調査結果(速報値)は、以下のとおりです。

現時点で、全ての建物が 4,500 点以下のため、構造上危険な状態に該当します。

建物	北校舎(西棟)	北校舎(東棟)	南校舎	体育館
点数	3,892	4,065	3,892	4,264

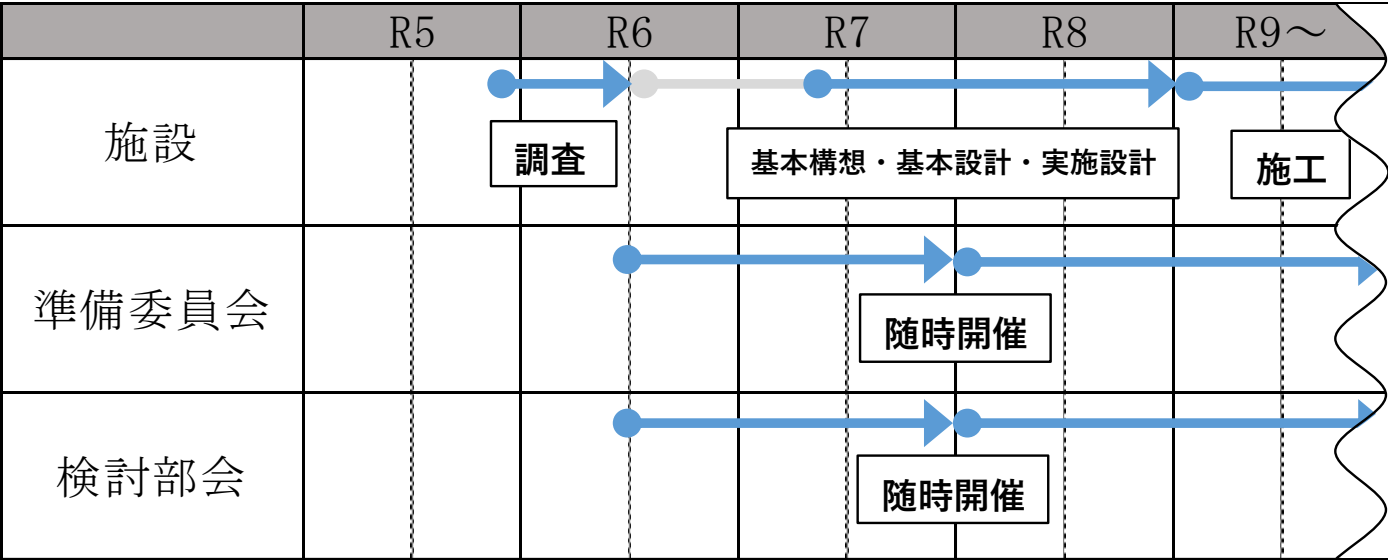
5. 改築と大規模改修(長寿命化改修)について

	大規模改修(長寿命化改修)	改築
概 要	老朽化施設した施設を、将来にわたって長く使い続けるため、単に物理的な不具合を直すのみではなく、建物の機能を現在の学校が求められている水準まで引き上げること。 ※躯体を再利用する	既存の建物を全て解体して躯体から新築工事を行うもの。
メリット	・工期の短縮、工事費の縮減ができる。 ・廃棄物が少ない。	・設計や施工上の制約が少ない。(高層化や地下階の拡大が容易に可能、設計や施工は比較的容易、耐震基準、法規などについては最新のものの対応が容易)
デメリット	・設計及び施工上の制約が多い。(柱・耐力壁などの既存躯体を利用するため間取りの変更に制約が生じる場合がある。計画には十分な検討が必要。)	・廃棄物が大量に発生する。既存建物の解体と廃棄に費用と時間がかかる。 ・工事に時間と費用がかかる。

文部科学省「学校施設の長寿命化改修の手引」より

その他、①コンクリートの強度不足、②基礎における鉄筋の腐食、③校地環境の安全性の欠如 がある場合は、対策費用が多額となるため、改修に適さないとされています。

【新校舎完成までのスケジュール(修正案)】



【令和6年度、7年度のスケジュール(修正案)】

